

コンテンツ一覧

- ◆新型コロナウイルス院内感染について
- ◆教授就任のごあいさつ

◆新型コロナウイルス院内感染について

新型コロナウイルスによる院内感染では地域の皆様、地域の医療機関の皆様にご迷惑とご不便をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。

令和2年9月11日から患者様6名、職員11名の感染が確認されました。そのため9月14日から10月6日まで通常診療を中止しましたが、会津保健所、福島県対策本部、福島県立医科大学附属病院のご協力により、終息を迎え10月7日より通常診療を行っております。

当院は会津地域の第二種感染症指定医療機関として、これまで以上に感染対策を徹底しスタッフ一同、会津地域の医療に貢献してまいります。

病院長 大田 雅嗣

◆教授就任のごあいさつ◆

臨床医学部門

教授 歌野 健一

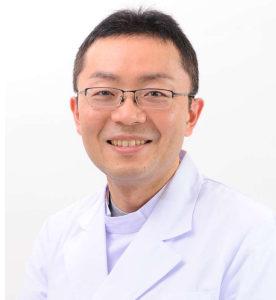
(うたの けんいち)

出身地 埼玉県入間市

出身大学 昭和大学

趣味 登山・カヌー

就任 令和2年6月1日



感染症・呼吸器内科学講座

教授 久米 裕昭

(くめ ひろあき)

出身地 愛知県名古屋市

出身大学 富山医科薬科大学医

学部医学科

名古屋大学大学院

医学研究科

趣味 野球、史跡探索、文楽

就任 令和2年12月1日



このたび臨床医学部門・放射線科の教授を拝命しました。私は大学卒業後の数年間、内科医として研修を行いました。実際の医療現場でCTやMRI検査が多用されているのを目の当たりにして、放射線診断学に興味を持ちました。その後、縁があって自治医科大学の放射線科に入局し、放射線科医としてのトレーニングを積んで参りました。

現代の医療に放射線医学は欠かせないものとなっており、当院でも多くの診療科が放射線検査により診断を行っています。また、近年では放射線検査を応用したIVR (Interventional Radiology)により、疾患によっては外科治療に匹敵する治療効果をあげています。

当センターには、2013年の開設時に赴任し、小腸・大腸疾患の診療を行う傍ら、放射線科医としても業務を行ってまいりました。今後も大学病院の使命である診療、教育、研究に力を注ぎたいと考えています。皆様、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

会津医療センターニュースレター第25号は、新型コロナウイルス感染症対策としてペーパーによる配布は行わず、ホームページのみといたします。

名古屋駅前を中心部で育ちました。学生時代は富山市で過ごし、岐阜県の大垣市民病院（関ヶ原古戦場の近く）で医師として出発しました。名古屋市に戻り、米国（フィラデルフィア市）、大阪府（河内長野市、堺市、泉南市）などを経て会津若松市に参りました。大阪在住の時には国立文楽劇場に足を運び文楽鑑賞を楽しみました。曾根崎心中、義経千本桜など印象的でした。これまで、そして今後の生き方は、母校の中学～高校の校歌の一説に詠われる“誠実吾を欺かず。勤儉永遠にいそしみて。”を座右の銘としています。喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の治療薬である、 β_2 アドレナリン受容体刺激薬の作用機序の基礎的研究、両疾患における好酸球性気道炎症制御の意義について臨床研究をして参りました。この関係で、喘息、COPDの鑑別診断を基盤とした病診連携の推進に力を注ぎ、専門医が極めて少ない大阪の泉州南部地域で地域医療の改善に取り組みました。また、感染対策にも従事し、院内感染の制御に奔走しました。この会津の地で、これまでおこなってきたことを糧として、さらに発展させ、みなさまの健康増進に少しでも貢献することが叶えばと思います。